

平成 14 年 1 月 25 日
漁業学科 49 卒 高津 敏

「北星丸最終航海東京寄港歓迎パーティーに思う」
(親潮第 277 号 14.3.7)

我々にとってこのほか思い出多き練習船北星丸の最終航海の途上東京寄港を記念して、平成 13 年 12 月 18 日、北水同窓会東京支部の漁業・遠洋学科の同窓を中心とした本船ゆかりの仲間による「有志の会」として、盛大にお迎えいたしました。

昨今の経済情勢と当支部への総会への参加状況及び年末という時期的に同窓の出費多端を慮って、当初 40 名を想定していました。

お蔭様で、支部参加者 159 名の熱き思いの結集及び学部長初め、本学からのご出席も頂きまして、総勢 180 名の関係者が、ホテルマリナーズコート東京に集い、本船関係者や専攻科の学生の労をねぎらい、かつ旧交を暖めつつ大いに閑古談に酔いしれました。

当日の実況を少しご報告申し上げます。

会は、東京支部作田幹事長(40セ)の司会進行により、18時30分に石瀬支部長(22ギ)の歓迎の挨拶をもって開始、目黒船長(47ギ)の答礼のご挨拶という形で厳粛かつ和やかな雰囲気で行いました。

会場には、特専OGで道新網走支局の山崎真理子(H8ギ)記者も駆けつけ、本人の思いも込めた取材に、現役の船乗りOB達が、一生懸命応じている姿が見受けられました。

会の半ば、遙か暴風圏を前にした日新丸乗船中の(財)日本鯨類研究所の木和田調査員(H12ギ)から寄せられた長文のメールをご紹介します、花を添えました。

同船には本人他同窓5名が調査捕鯨に従事しつつ、北星丸へのお別れの挨拶と盛会を祈念する言葉が盛られていました。

私が特に印象深く感じたことを幾つかご披露申し上げます。

予想外の参加者増は、若い同窓が多く集まってくれたこと。

若い独身OGの参加者が多く、函館本部を含め、各地の同窓会でも稀な盛況であった。

とりわけ、昭和60年以降平成卒の同窓が、凡そ1/3にも達し、同窓会の新時代の様子を呈していたこと。

これらの同窓は、ほとんどが東京支部の主催行事に初参加であり、本部や支部事務局にはない独自のネットワークを持っているのだということ。

実習以外の論文や研究で乗船されたご縁を感謝する何人もの方が、遠方から駆けつけてくれたこと。

繪面学部長（37セ） 梨本幹事長（36ギ） 米田幹事（40工）の同窓会の幹部をはじめ、自費参加のおしよるまる山口船長（49ギ）と資源計測学講座の齋藤誠一教授（50ギ）のご出席で大いに盛り上げていただき、学部、本船及び老若男女の同窓の思いが一致した素晴らしい会となったこと。

時の流れの無常で、本日を以って、練習船北星丸と目黒船長以下士官・乗組員の方々及び特設専攻科の実習生が2度と我々各地の同窓の待つ港へ、その勇姿を現すことはなくなりました。

船長と士官の方々はもとより乗組員の皆様へのご苦勞を謝すると共に、ご健勝を心から祈念する気持ちは言い尽くせません。

本当に、お世話様でした。有難うございました。

本日もご参集の皆様はもとより、多くの同窓達に「北星丸」の名前でもって、北大水産魂が思い出と共に未永く同窓の胸の奥に記憶されるであろうことでしょう。

あるときは同窓との酒の席、あるときは子供達への一時代を風靡した昔話をしていただければと、切に思うものであります。

北星丸及び先輩達が、栄光ある水産業発展の栄光の歴史の一旦を担ってきたことなど語り継がれんことを願うものであります。

さよならパーティにも終わりがあります。

滋野（36工）先輩の音頭により、都ぞ弥生の大合唱に続き北農寮逍遥歌で、北星丸の安航と参会者のご健勝を祈念しつつ肅々と歌い上げてその幕を下ろしました。

なお、本当に嬉しく思いましたのは、本日の参会者への感謝のお土産として何とあの幻の「鮭の缶詰」が、特別に用意されておりました。

何とも心憎い学部と本部及び本船の演出ではありませんか。

一同皆、瞳を輝かせ驚きの声を発しながら感激を新たに、別れを惜しみつつ師走の街へ、大満足で帰って行きました。

北星丸がいかに多くの同窓の内なるシンボルであったかということ、今回改めて感じました。

そのかけがえのない経験を生かし、同窓の皆様のご支援を頂きながら、支部の発展を計ることが、不肖我々支部幹事に課された使命と感じました。

従いまして、本日お集まり頂きました同窓の皆様方及び支部同窓の皆様には、この場をお借りしまして、特にお願い申し上げたいことがございます。

ご存知のとおり、我が支部の同窓会だけではありませんけれども、北大全体の同窓会も各地にあり、何れの会も出席者が会を重ねる毎に、少なくなっていると聞き及んでいます。

即ち、当支部でも予算の限り・台所事情切迫の事情がございますので、今後は可能な限り、手紙等の通信費に関わるコスト削減に努め、普及しているインターネットによる連絡網を早期に整備したいと考えています。

具体的には、今後、支部幹事を拝命していることもあり、組織の活性化の為に、会場で頂きました名刺などを頼りにメールで緊密なご連絡や情報をお流したいと考えています。

その折には、是非とも近況や忌憚のないご意見やアイデア等を一言ご返信ください。

本日の皆様の朗らかな絵顔と会話を耳にしながら、同窓の誼を深めるため少しでも充実した支部同窓会をご案内してまいりたいと思っています。

以 上